

## 「北条政子の演説」

歴史上、人々の心を動かした演説がある。その中でも有名なものが、鎌倉時代、承久の乱を前にした源頼朝の妻・尼將軍とよばれた北条政子の演説だ。鎌倉時代の歴史書「吾妻鏡」によると、北条政子は御家人たちを前にして「皆心を一つにしてお聞きなさい。これが私の最後の言葉である。源頼朝公が朝敵を征伐し、鎌倉幕府を草創してから、官位といい、俸禄といい、その恩はすでに山よりも高く海よりも深いのだ。恩に報いようという志が浅くはありませんか。しかるに今回、逆臣の讒言によって、道義に反した天子の命令が下された。名を惜しむ者は、早く上皇方の首謀者らを討ち取り、三代將軍の眠る、この鎌倉の地を守りなさい。ただし院方に参ろうとする者は、ただ今申し出るとよい」（現代語訳）と書かれている。ただ同じ時代の歴史書「承久記」には、異なる演説が書かれている。

先日の日曜日、大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の中で、このシーンが出てくる。このドラマのクライマックスでもある。脚本家の三谷幸喜さんがどんなセリフにするか楽しみだった。北条政子は集まった御家人を前に、最初こそ大江広元の原稿を読むが「頼朝の恩は山よりも高く、海よりも…」と言ったところで、原稿を閉じ、自らの言葉で「本当の事を申します」と切り出すと、上皇が狙っているのは鎌倉ではなく執権・北条義時の首であるとし、義時もそれに応じようとしていたと告白する。「あなた方は本当にそれでよいのですか?」「義時は一度たりとも私利私欲に走ったことはありません」「ここで上皇様に従って、未来永劫西のいいなりになるか。戦って坂東武者の世を作るか、ならば答えは決まっています」「頼朝様の恩に今こそこたえるのです」と呼びかける。上皇側は幕府が義時の首を差し出すと考えるとも訴え「バカにするな」「そんな卑怯者はこの坂東に一人もいない!」などと呼びかけ、御家人たちは雄たけびを上げ、義時は涙を流すというストーリーだった。

この演説でどのように言ったか正確には分からないが、言葉を飾らず、本音で言った言葉の方が、人の心を動かすように思う。もし北条政子が鎌倉幕府をまとめきれなかったら、歴史は大きく違っていたかも知れない。

12月13日 校長 鈴木 幸雄

◆問題 1円、5円、10円、50円、100円の5種類の硬貨が10枚ずつあります。どの種類の硬貨も1枚以上使って、200円にする方法は何通りありますか。